

ウェルび～な通信

第4号

～ずっと海老名で暮らしたいプロジェクト～

第1回 海老名市自立支援協議会が開催されました

今年度、第1回目となる自立支援協議会が5月18日（水）に、海老名市保健相談センターで開催されました。会議冒頭、内野市長よりご挨拶を頂き、その後、安藤会長（社会福祉法人星谷会理事長）の司会で30名近くの委員とともに、議事を進めました。それぞれの話題に対して、活発な意見が出され、皆さんの熱い思いと意欲をひしひしと感ずることができた協議会でした。今年の協議会の活動がとても楽しみです。

相談支援事業実績報告

海老名市の相談支援の状況について、委託事業所である「地域活動支援センター結夢」と「相談支援事業所び～な'S」より、実績報告を行いました。報告は、実際の事例を交えながら、現状と課題について説明が行われました。サービス等利用計画への対応や、社会資源の不足、関係機関との連携強化などの課題が挙げられました。今後、これらの課題が解消されるよう、自立支援協議会を中心に取り組んでいくことが確認されました。

発達障害者地域支援 マネージャーについて

近年、行政機関や支援機関には、発達障がいに関する相談が、数多く寄せられています。その中には、対応が難しい相談も多いことから、行政機関や支援機関をバックアップする制度として、今年度より「発達障害者地域支援マネージャー」が設置されました。これにより、発達障がいのある方の支援が、より一層充実していくことが期待されます。

障害者差別解消法について

平成28年4月に施行された「障害者差別解消法」に基づく海老名市の取り組みについて、説明が行われました。海老名市では、障がい福祉課が中心となり、障害者差別が生まれぬよう、差別解消協議会の設置を検討するなど、積極的に取り組んでいきたいとの説明が行われました。また、行政機関だけでなく、市民全体の理解と協力が必要であることも確認されました。

障害者差別解消法とは

障がいのある・なしにかかわらず、すべての人がお互いの個性を尊重しながら、共生できる社会をつくるための法律です。平成28年4月1日より施行されています。主に、2つのポイントがあります。

○不当な差別的取り扱いの禁止

正当な理由なく、障がいを理由にサービスの提供を拒否したり、特定の条件をつけてはならない。

○合理的配慮の提供

障がいのある人から、なんらかの配慮を求める意思が示された場合、合理的な配慮をしなければならない。



障がいがあっても、なくても、みんなが「ずっと海老名で暮らしたい」と思える地域づくりを目指していきましょう。

「皆で海老名の福祉をより良いものにしていきたい」という思いから、平成 11 年 3 月に障害者団体連合会の各団体、星谷会、生活支援の会ステップ、海老名市社会福祉協議会が集まり、「海老名市の福祉を作る会」を結成し 17 年余りが経ちました。途中、海老名市障がい福祉課や様々な事業所も加わりメンバーも増え、情報交換やその時々テーマに沿った話し合いを重ねてきました。平成 15 年度には、警察、救急車、病院、交通機関、コンビニ等との関わりについてのアンケート調査を行い、調査結果と小冊子「知的障害のある人を理解するために」を関連機関に配布し啓発活動も行いました。

「福祉を作る会」は、要綱等何もない会ですが、自立支援協議会ができる前から障がい者団体や事業所、行政などが連携し、「誰もが暮らしやすい街づくり」をめざして会議を重ねており、活発な意見も出て、大変重要な会だと思っています。「ずっと海老名で暮らしたい」と思える海老名になってくれたらと願っています。

飛び出せ!! ウェルび～な通信 -「働く」・「広げる」編-

海老名市自立支援協議会には、テーマごとに 5 つのチームがあり、活動をしています。このコーナーではチーム代表者にインタビューを行い、活動や代表の方の思いなどについて紹介をしていきます。

「働く」 代表 石井 直輔さん（チーム働く 代表）

【主なテーマ】①障がい者の雇用促進に関する普及・啓発活動

②就労チャレンジ事業の充実

【構成メンバー】 障害のある人たちに働きやすい地域となる事を願って集まった関係者。

22 団体で構成され、自立支援協議会最大のメンバー構成。

【活動経過・特徴など】

昨年度は、シンポジウム「障がい者の雇用を考える」を開催し、一般企業を含め 100 名を超える参加がありました。また、「就労チャレンジ事業」では、ジョブコーチの重要性を提言し、その結果、就労チャレンジ事業に特化したジョブコーチ配置が実現しています。

【代表者より】

昨年度より引き続き「実習・体験～雇用とつながるような仕組みを構築出来るか」を考えながら、市内企業向けのリーフレット作成やアンケート調査に取り組んでいきます。チーム会議開催時の出席率も高く「熱く！」取り組んでいます。就労系の事業所も増えており、当事者の活躍の場も広がりました。活動する仲間が増え、今後は楽しみです！



「広げる」 代表 清水 剛さん（NPO 法人若菜会 エアリアル所長）

【主なテーマ】①自立支援協議会の活動に関する情報発信

②福祉関係者のつながりの輪の拡大

【構成メンバー】 海老名市内の障がい者支援機関や当事者団体など

【活動経過・特徴など】

自立支援協議会事務局直轄のチームとして、広報的な役割を担っています。「ウェルび～な通信」の発行の他に、昨年度は、「ラジオ・ウェルび～な通信」も実施しました。また、自立支援協議会に参加している方を中心に、海老名の福祉を担う人々の輪を広げていくための方法を考えています。

【代表者より】

海老名市内には、当事者団体や親の会、行政機関や各支援機関がありますが、それぞれの垣根を超えて障がいのある人もない人も、ずっと海老名で幸せに暮らしていける。そのような海老名市になることを願っています。このチーム活動が、関係者全員で海老名の福祉をつくっていくための第一歩にしていきたいです。

